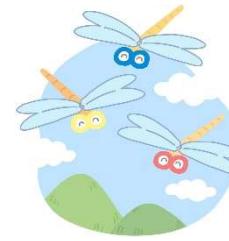


研究所だより

第489号
2025年 9月 3日
発行：土佐清水市教育研究所
TEL 82-3015

“とんぼのめがねは 水いろめがね
青いおそらを とんだから とんだから
とんぼのめがねは 赤いろめがね
夕焼け雲を とんだから とんだから”

『とんぼのめがね』 1949年(昭和24年) 童謡



～実りの秋・2学期スタート～

2日の新聞に「気象庁は1日、今年の夏(6~8月)の日本の平均気温は、統計を取り始めた1898年以降最も高かったと発表した。平年に比べて2・36度高く、これまで最高だった昨年と一昨年を上回り、3年連続で最も暑い夏となった。9月前半も東日本と西日本を中心に猛暑日が見込まれ、熱中症への警戒が引き続き必要」と書かれていました。本当に暑かった7月、8月。まだまだ残暑厳しい日が続きそうですので、引き続きしっかりと熱中症対策をとるようにしましょう。

2学期が始まり、児童生徒の元気な顔・声が学校に戻ってきたことでしょう。猛暑であっても、子どもたちは長期休業でなければできない貴重な体験をし、心身共に成長したことと思います。

2学期は、体育祭、陸上記録会、教育文化展や音楽祭など諸行事の多い学期です。行事を通して仲間づくりや地域の皆様と関わりを深めることができます。長期休業で蓄積されたエネルギーをフルに生かし、地域と連携しながら実りの多い2学期であってほしいと思います。

=夏休み明けの学級づくり=

40日余りの家庭主体の生活から学校生活へ戻ってきた子どもたちにとっては、学校や学級で夏休み前にできていたことができなくなったり、築き上げたことが崩れたりしていることがあります。再確認しながら様々な取組を始めましょう。

【ルール・マナーの再確認】

みんなで気持ちよく集団生活を送るためのルールやマナーの意識が薄れ、夏休み前に身についていたものも忘れていることが多いでしょう。そこでまず取り組みたいのは、人と関わるときや集団で生活するときのルールやマナーの再確認です。学級の実態に応じて、みんなが楽しく快適に学級で生活したり、活動できるように、ルールやマナーをいくつか決め、全員で守れるようにしましょう。

ルールやマナーを確立するために担任から強制的に守らせることは、子どもたちの反発を防ぐために避けた方がよいでしょう。ルールやマナーは、人と関わったり、集団生活で楽しく活動したりするために、人間が編み出した生活の知恵であることを十分理解させた上で、子どもたち自身で決めさせ、取り組むようにしたらどうでしょうか。

また、各係活動や委員会活動等の中で、学級での存在感を植えつけ、互いに認め合う雰囲気づくりをすることで、集団を高め合うことができます。特に行事が多い2学期は学級集団を高める絶好の機会です。行事が集団を高め、集団が行事を輝かせます。行事を通していつも以上に子どもの心に寄り添い、異変のサインを見逃さないように心がけ、大人が心配していることを伝え、話を聞くことが第一です。

☆第75次土佐清水市教育研究集会・一日教研開催☆

8月1日(金)、第75次土佐清水市教育研究集会・一日教研が清水高校集会室で開かれました。会場には、市内の教職員に加え、清水高校の先生方や保護者も参加し、全体会(開会行事・講演)が行われました。開会行事では、斧川哲也教育長と佐竹正史推進委員長が挨拶を述べ、続いて日程の説明がありました。

その後の講演では、岐阜県教育委員会教育総務課の三島晃陽さんが「子どもたちが変われば、地域の未来が変わる」と題して登壇しました。講話の内容は次のとおりです。

① これからの教育と探究的な学びの重要性

次期学習指導要領を見据えた教育の方向性として「探究」が学びの核になることを強調しました。

② 「リアルな学び」の実現に向けて

自分が校長として取り組んだ実践を紹介し、総合的な学習の時間を中心に据えることで、多様な他者と協働できる力を育んできたことを語られました。

③ 土佐清水市における探究の可能性

土佐清水市の人口減少の現状を例に挙げ、ふるさとの未来の姿を生徒自身が知ることを出発点に、「自分たちに何ができるか」を考える学びの重要性を示しました。そして、身近な教材や地域資源を活かした取組の例を紹介し、最後には参加者がグループに分かれて、リアルな学びを実現するためのストーリーを語り合いました。

講演は軽快でわかりやすく、会場は終始和やかな雰囲気に包まれました。参加者にとって、教育の未来と地域の課題を結びつけて考える貴重な機会となりました。

《全体会開会行事・講演の様子》



[開会行事:教育長、推進委員長挨拶]



[講演:三島晃陽氏]



[グループワーク]

午後からの部会別研修では、猛暑をものとせず、講師招聘しての研修や指導案検討、実践発表等、先生方のやる気と熱意が伝わる研修が行われました。下記に研修の様子を紹介します。

〈各部会報告書より〉

(1)〔探究的な学び部会〕

①指導案検討「ごんぎつね」

助言(西部教育事務所)

・子どもたち自身で問い合わせ立てる力をどう付けていくのか

②「読解力を高める授業方法について」

③半日教研 公開授業 講師招聘



(2)〔ふるさと教育部会〕

①ジョン万学習(講話・「帰国後の功績等について」 講師・垣内守男氏 質疑応答)

②足摺岬小・清水中の実践発表ならびに高学年副読本の教材研究

③情報交換



(3)〔なかまづくり部会〕

①講話と演習 演題「仲間づくりについて」 講師・小松宏暢氏(高知県スクールカウンセラー)

ア 学校で使える集団づくり～エンカウンターに焦点をあてて～

エンカウンターには2つの柱があり、1つはエクササイズ(活動)、もう1つはシェアリングであり、特にシェアリングが大切で、エクササイズを振り返ることで、気づきや感情の明確化やねらいの定着化を図ることができる。

イ 演習 エンカウンターの実施(バースディライン、他己紹介、ヘリウムフープ、森の仲間たち)



(4)〔教育DX部会〕

①教育DXスキルアップ研修会(受講)

・DXとは

・デジタル教科書について

・ダッシュボード

・講話

「教育データ」を活用した個別指導と授業改善



(5)〔養護部会〕

①教材作成・実践交流

・給食のご飯を想定した小中学生の適正なご飯の量の模型の試作

②支部検討事項について



(6)〔事務部会〕

①県防災対策課・市危機管理課をファシリテーターとして招聘し防災HUG研修

・土佐清水市版HUGの研修

②学校安全点検の確認

・各校の様式の内容の確認

③情報交換

・教科書システムの利用方法について

